

2009 年度 第 2 回水工学委員会議事録

日時： 2010 年 3 月 3 日(水) 18:00-20:00

場所： 北海道大学札幌キャンパス 百年記念会館地階大会議室

出席者：辻本哲郎(顧問)，中川 一(委員長)，寶 馨(副委員長)，関根正人(幹事長)，田中昌宏(編集幹事長)，泉 典洋，井芹 寧，大槻英樹，萱場祐一，河原能久，榊山 勉，里深好文，清水康行，藤堂正樹，西田修三，藤田裕一郎，矢島 啓，渡邊康玄，大石 哲，坂井伸一，坂本 康，清水義彦，知花武佳，富永晃宏，早川 博，藤田一郎，村上正吾，矢野真一郎 [敬称略]

議題：

中川一委員長からの挨拶の後，引き続き以下の事項についての審議が行われた。

《報告事項》

1. 各部会・小委員会の活動報告および活動計画

○水文部会 (大石 幹事)：

第 10 回地下環境水文学に関する研究集会を 9/5-6 に開催した。また，小水文研究集会「ダム計画や治水・利水計画について，水文分野は今後どのように貢献するのか，できるのか」を 3/5 に開催の予定。

○基礎水理部会 (藤田一郎 部会長)：

第 3 回基礎水理シンポジウムが 12/21 に土木学会講堂にて開催された。テーマは「土砂生産」と「植生水理」。参加者数は 40 名であった。

○環境水理部会 (井芹 寧部 会長)：

研究集会を 7/2-3 に草津セミナーハウスにて開催の予定。

○河川部会 (泉 典洋 副部会長)：

河川技術シンポジウムを 6/3-4 に東京大学弥生講堂にて開催の予定。河川技術論文集への投稿は 178 件に対してアブストラクト審査の結果 130 編に絞られた。また，2010 年度の企画内容について説明があった。

○水理・水文解析ソフトウェアの共通基盤に関する小委員会 (幹事長)：

CommonMP の Ver.1 が公開されたことにあわせて，説明会を 3/25，シンポジウムを 4/21 (土木学会講堂) に開催する。小委員会を平成 23 年 5 月まで延長することが審議され了承された。

○流量観測技術高度化研究小委員会 (寶小委員長)：

第 1 回研究集会を東京大学・山上会館において 12/14 開催した。5 件の話題提供と研究討議を行った。また，今後の進め方について協議し，研究集会と併せて流量観測の現地見学などを行うこととした。

○流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会 (立川先生)：

本小委員会を今後とも水工学委員会内に継続設置するよう依頼があり，これを了承した。

この委員会は計画学委員会との共同所管。公募研究の採択は、河川懇談会と同様に河川局内に設置された分科会が担当する。小委員会は、全国大会共通セッションなどを通じて研究成果を広く公開し、議論する場を設ける。

○河川懇談会（辻本顧問）：

国交省が今年度より公募型へ移行し、3月初旬より第2回公募を開始する。地域型と流域管理についても同様の形式となる。河川懇談会の位置づけを、水工学委員会と国との議論の場とする方向で議論中。オープン型に移行し、新しいHPの立ち上げも予定されている。

○沿岸環境関連学会連絡協議会（田中昌宏幹事）：

水工学委員会からの委員に二瓶先生(東京理科大)ならびに横山先生(首都大学東京)が就任した。

2. 水シンポジウム in ふくおかについて(幹事長)

8月3～4日に福岡大学にて開催する。3日はシンポジウム、4日は見学会。矢野先生(九州大学)が企画委員会委員を担当する。第一分科会は水工学委員会の環境水理部会(井芹部会長)の担当。全体テーマは「過去から未来へ 水・人のつながり ふくおかからの発信(案)」。予算確保について、土木学会重点研究、河川環境管理財団、その他へ助成申請中。運営委託業者の選定にあたり、土木学会西部支部HPに入札情報を掲載する

3. 平成20年度水工学委員会活動度に対する評価結果（関根幹事長）

例年通りA評価であったことが報告された。

4. 水工学論文集編集小委員会報告（田中編集幹事長）

今年度の目標は「査読の正常化」と「著者へレビューの徹底」であった。第54巻(2009年度)投稿数363編、採択数276編、採択率76.0%であった。一次査読通過後に返却1編、取り下げ2編、修正版未提出3編があった。

12/8以前に登載証明書を発行してほしい旨依頼があったが、これは委員長判断で了解したことが報告された。

来年度より8月末までの会員番号取得手続き完了の徹底化を図る。HPで7月上旬の案内掲載時に告知する。

登載証明書の対応方法を申し合わせ事項として次の通り決めておく。①著者からの依頼があった場合のみ対応し、②小委員長、幹事長、主査で決定する。

第3査読者の報告が遅延した場合には、第4査読者をたてて対応する。

修正原稿について、修正箇所の記載がないものや、新旧対照表が不十分なものが見受けられた。

著者名の削除についての申し出があった。現在の規定では、所属の記載としてどの段階のものを書くのかが明記されていない。今回は、著者変更を認めず、以下のように対応するよう求めた。①研究実施時の所属、②論文提出時の所属、など。

国際セッション優秀賞はWenchao SUN氏（山梨大学大学院）が選出されたことが報告された。

5. IAHR, 国際会議関連の報告

○IAHR：

各会員が所属希望委員会を申請する規約ができたこと、34回ブリスベン大会(2011)への実務

者の参加要請, 2015 年大会にチェコとデルフトが候補となっていることなどが報告された.

○第 17 回 APD-IAHR :

240 名の参加 (日本が最多). 18 回は韓国のチェジュ島. 19 回はベトナムとマレーシアが候補. 次期会長に田中 仁教授 (東北大学) が選出された. 任期は/1/1~2012/12/31 (2 年間).

《協議事項》

1. 2010 年度水工学に関する夏期研修会 (神戸大学)について (藤田一郎幹事)

8 月 11~12 日に神戸大学工学部にて開催する. 水工学委員会の担当. テーマは「都市水害の実態と避難対策 (仮題)」.

2. 第 55 回水工学講演会の開催について(東京大学): 世話役 沖 大幹先生・知花武佳先生

2010 年 3 月 8 日(火), 9 日(水), 10 日(木) 東京大学駒場リサーチパーク内生産技術研究所.
第 56 回は愛媛大学(門田章宏先生が世話役).

3. 土木学会論文集再編にともなう水工学委員会関連論文の今後について(幹事長):

(1) 土木学会論文集

2011 年 1 月以降, 土木学会論文集 B1 を J-Stage 上に年 4 回発刊する. このうち, 従来の水工学論文集がその特集号となる. 水工学論文集に関しては, 従来通り 2 月に CD 版を発行するが, その後これを J-Stage 上に掲載する. 後者を正式版とする. 掲載時期は 8 月かそれ以降となる. 通常号に関しては, 2, 5 ならびに 11 月の 3 つの volume からなり, その編集は, 水工学・海岸工学・海洋開発の三委員会合同の編集委員会を組織し, これにあたることになる. 寶 馨教授(京都大学)が次年度の B 部門合同編集委員会の委員長に就任する.

合同編集委員会に割り振られる運営予算は, 論文掲載数により比例配分されるため, 通常号への積極的な投稿が求められる. ここ数年, 査読期間短縮化や査読の公正さを求めるなどの努力の結果, おおむね半年で掲載されるようになってきている. 再査読は原則行わない方針との説明もあった.

水工学論文を J-Stage 上に掲載していく関係で, に関連する詳細の説明 (ファイルの作成, ページの付け方など) が行われた. 現行の水工学論文集(CD 版)は, 従来通り 2 月に発刊される.

(2) 英文論文集

2011 年 6 月以降をにらんで, 土木学会英文論文集 JSCE Journal of Hydraulic, Coastal and Environmental Eng.が J-Stage 上で発刊されることになった. B 部門全体を対象とするものとして, 名称は JSCE Journal of Hydraulic, Coastal and Environmental Eng.となる. これについて海岸工学ならびに海洋開発委員会の執行部との協議を重ねてきた結果として, 水工学委員会関連の論文が主な掲載対象となること, これまでの JHHE(Journal of Hydro-science and Hydraulic Eng.) 論文集からのスムーズな移行を目指せばよいこと, などが確認された. 年間 5~10 編(1 編当たり 10~20 ページ程度)を最低限の目安とし, 部門毎に準備を進めていく. 当面は Selected Paper を主体とし, 新規論文も受け付ける.

[追記] 時期については当時未定であったが, 2011 年 1 月末時点で 2013 年 1 月以降とされている.

4. 水工学委員会 HP の管理について（矢野委員）

新しい HP への移植が終了したことが報告された。審議の結果、当面の運営は、ホームページ WG（主査：朝位委員）が行うこと、その更新は水工学委員会執行部と部会長とが責任を持って対応することが了承された。各委員に中身をチェックして頂き、次年度に公開する旨が報告された。

5. その他

中川委員長より、IAHR における日本のプレゼンスが弱いため、Japan Chapter の創設に向けた検討が提案された。

以上